

利根川・荒川水系水道事業者連絡協議会 令和4年度の事業活動について

—第7回合同水質事故訓練を実施—

令和4年11月18日、合同水質事故訓練を実施しました。今回は、荒川の太郎右衛門橋付近の地点においてフェノールを検出し、事故対応を開始するというシナリオとしました。

訓練当日は、現場出動のほか、メーリングリスト・クラウド型グループウェア等を活用した事業者間の情報共有を行い、各事業者において課題や改善点を確認しました。

訓練後のアンケートでは、「事故対応の流れやクラウド型グループウェアの操作方法を改めて確認する良い機会であった。」「水質事故発生時の対応について日頃からよく把握しておく必要性を改めて感じた。」などの声があった一方で、「江戸川流域や利根川上流など、多くの事業者に影響がある地点での事故を想定し、情報発信や監視地点の調整をより密に行ってはどうか。」等、来年度以降の事故訓練の実施に向けた要望がありました。

今後も、このような大規模な水質事故を想定した訓練を継続し、改善を重ねながら、水系全体としての水質事故対応能力の向上に取り組んでいきます。



水質分析の様子

—施設視察、講演会、技術研修を3年ぶりに開催—

令和5年2月16日、思川開発事業の視察を実施しました。視察には8事業体計12名が参加し、令和6年度末の完成に向けて建設中の南摩ダム及び黒川取水放流施設を見学しました。

参加者からは「立坑やダムの内部など建設途中でしか見られないので大変貴重な体験であった。」「水源地にはなかなか行く機会がないので、後任の育成のためにもこのような事業が活用できると良い。」等の意見がありました。

令和5年2月22日、国立保健医療科学院の秋葉道宏氏に「気候変動による水道原水水質への影響」について講演頂き、web形式で18事業体が聴講しました。

講演では気候変動が今後我々水道事業体に与える影響とその対策等について、最新の知見を交えながら説明いただきました。

令和5年3月2日、東京都水道局本郷庁舎にて技術研修を実施し、13事業体計13名が参加しました。技術研修では浄水処理に関する講義及びジャーテストや塩素要求量測定の実技を実施し、参加者からは「基礎的な知識を体系的に整理できた。」「知識と実際の業務とが結びついた。」などの意見がありました。

これらの事業活動は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、規模を縮小して実施いたしました。



建設中の南摩ダム堤体付近にて説明を受ける様子



技術研修でのジャーテストの様子